

奈井江町公共施設等総合管理計画

概要版



策定の背景と目的

これまで我が国においては、高度成長期から急激な人口増加と社会変化に対応するため、数多くの公共施設等の整備が進められてきましたが、老朽化が進み、公共施設等の大規模改修や修繕、建て替えなどの対策が大きな課題となっています。

地方公共団体においても、厳しい財政状況が続く中で、今後、人口減少等により公共施設等の利用需要が変化していくことが予想され、早急に公共施設等の全体の状況を把握し、長期的な視点を持って、更新・統廃合・長寿命化などを計画的に行い、財政負担を軽減・平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現することが必要となっています。

全国的な傾向と同様に、本町が所有する公共施設等についても、既に更新時期を迎えたものや、早急な老朽化対策が必要なものが数多く存在し、今後、多額の維持修繕及び更新費用が必要となることが見込まれます。このことは、本町の行財政運営における重要な課題であり、これを単純に施設の総量縮小やコスト削減のみで対処するのではなく、まちづくりを再考する好機ととらえて公共施設等の見直しと適正配置を推進し、持続可能で豊かなまちをどのように形成していくのか、町としての知恵と工夫を発揮することが求められています。

こうした状況を踏まえ、「皆で考え、共に町を創る」という不断の改革の姿勢を持ち、町民とともに、真に必要な公共施設サービスのあり方を検討するための指針として、「奈井江町公共施設等総合管理計画（以下、「本計画」という。）を策定します。

計画期間

平成 29 年度から平成 38 年度までの 10 年間とし、必要に応じて適宜見直しを行います。

取組体制

取組体制の構築

奈井江町行政推進会議を本計画の推進組織として位置づけ、全庁的な公共施設等マネジメントの推進を図るとともに、必要に応じて方針の改定や目標の見直しを行います。

また、本計画の管理組織として、財産管理、企画、財政の担当職員で構成する公共施設等マネジメント対策チームを設置し、庁内関係各課との連携及び調整を図りながら、本計画の適切な管理を進めます。

町民との協働

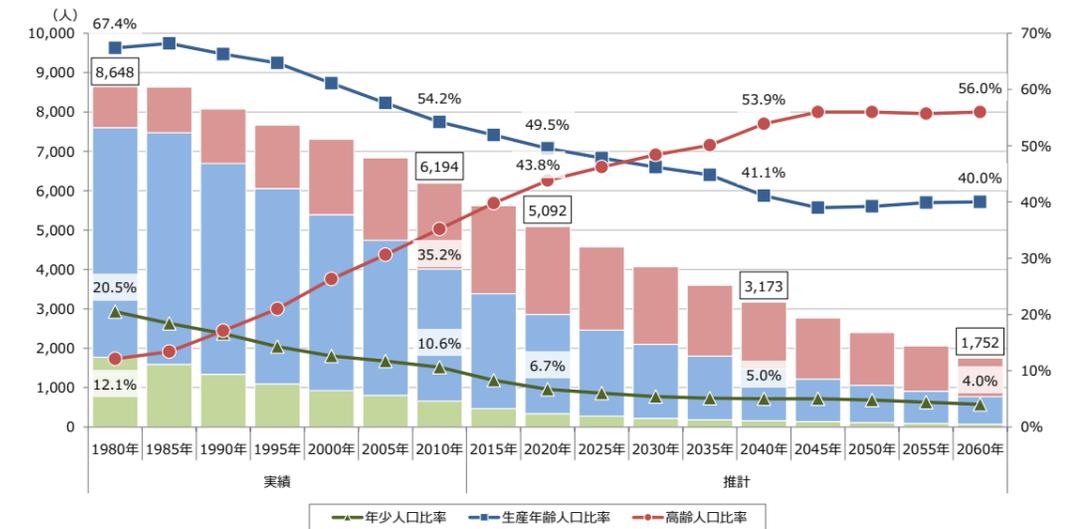
町民と公共施設等に関する問題意識の共有化を図るとともに、協働により問題解決に取り組んでいきます。

職員の意識改革

全庁的に計画を推進するためには、職員の意識改革が必要になります。公共施設等に関する現状を全職員が把握するとともに、既存施設をいかに効率的・効果的に活用できるかといった創意工夫の意識を持てるよう、より一層の意識改革に努めます。

人口動向

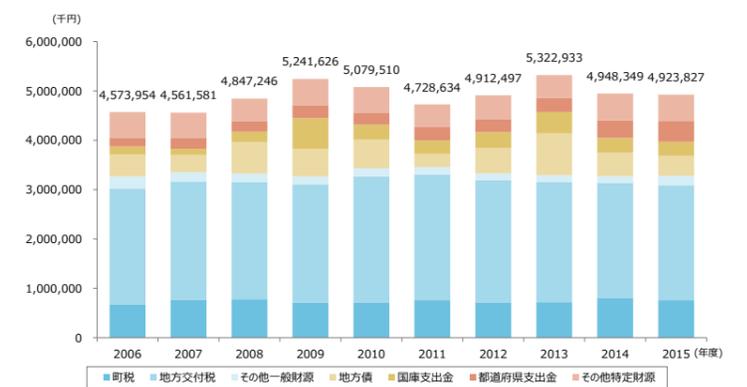
本町の人口は、1980 年以降減少傾向が続いており、2010 年には 6,194 人となっています。国立社会保障・人口問題研究所によると、本町の人口は今後も減少傾向が続き、2040 年には 3,173 人、2060 年には 1,752 人になると推計されます。



財政状況

歳入

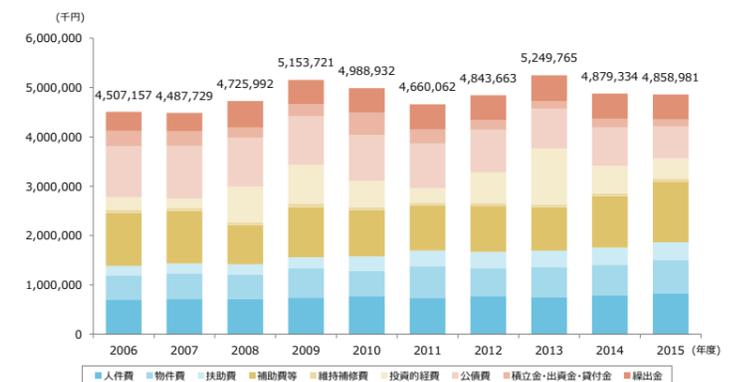
本町の歳入総額は、年によって増減があるものの、2006 年度以降約 50 億円前後で推移しています。2015 年度の総額は 4,923,827 千円となっており、前年度に比べ 24,522 千円の減少となっています。



歳出

本町の歳出総額は、2006 年度以降 45 ~50 億円程度で推移しています。

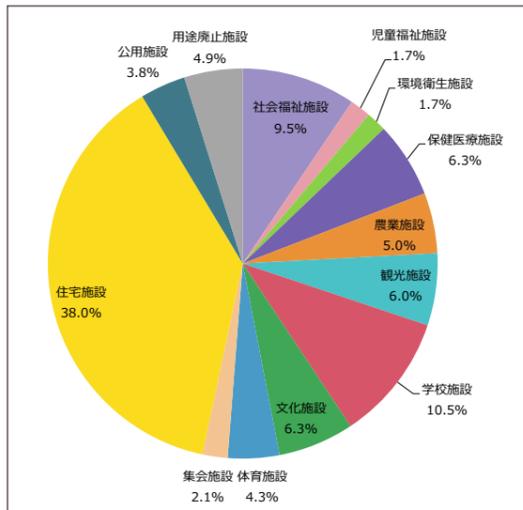
費用科目別では、扶助費の増加が続いており、2006 年度から 2015 年度にかけて約 1.9 倍に増加しています。



施設の現状

本町の建築系公共施設は全体で 181 施設、総延床面積 93,842 m²となっています。

▼建築系公共施設の施設分類ごとの延床面積比

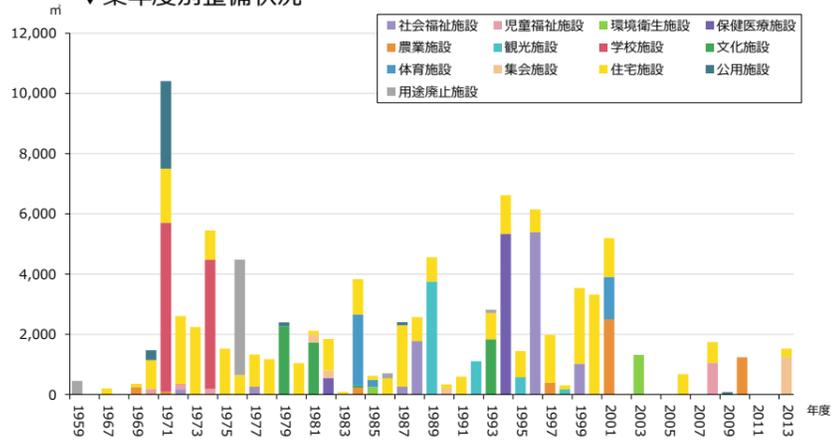


▼土木系公共施設一覧表

道路	町道	1級(幹線)	28,674	m
		2級(幹線)	23,852	m
		その他	80,894	m
	農道		2,117	m
	林道		14,975	m
下水道			80,733	m
橋梁	町道	延長 15m以上	30	橋
		延長 15m未満	13	橋
	農道	延長 15m以上	1	橋
	林道	延長 15m以上	1	橋
農業用排水路			5,371	m

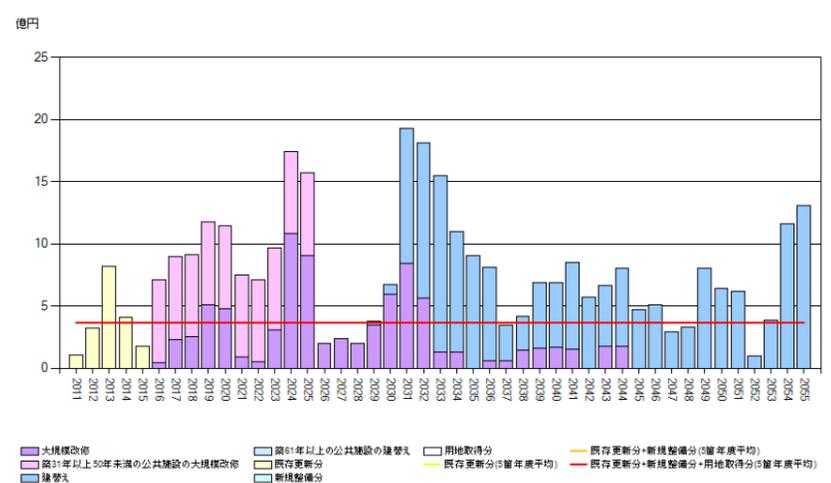
本町の建築系公共施設は、役場庁舎と奈井江中学校が昭和 46 年度（1971 年度）に、奈井江小学校が昭和 49 年度（1974 年度）に、公営住宅（東・南・北町・宮村団地）が昭和 45～59 年度（1970～1984 年度）に建設されるなど、昭和 40 年（1965 年）代から昭和 50 年（1984 年）代に建設された施設の総延床面積が約 4.2 万 m²となり、全体の約 45%を占めています。

▼築年度別整備状況



更新費用の推計

廃止等を検討している施設を除き更新費用を試算した結果、今後 40 年間で 320.0 億円（年平均 8.0 億円）掛かることになります。直近 5 年間の公共施設に掛かる投資的経費は年平均 3.67 億円ですので、毎年約 4.33 億円不足することになります。



公共施設等の管理に関する基本的な考え方

▶ 建築系公共施設

1 施設総量（総床面積）の縮減

将来人口の推移や町民ニーズを踏まえ、必要最小限のサービス水準を維持しながら「選択と集中」により、施設総量の削減と再配置を進めます。用途廃止施設など遊休・余剰財産の有効利用を図るため、再利用が可能な施設は、民間への売買・賃貸・無償譲渡等の処分を促進します。

総床面積の削減目標 ▶▶ **20%**

2 複合化・集約化による施設整備

公共施設の更新・改修の実施については、「複合化・集約化」により行うことを基本とし、複合化・集約化以外の単独施設の新規整備は原則として行わないこととします。

3 施設整備・維持管理・運営コストの縮減

公共施設の更新・改修はライフサイクルコストを念頭におき、長寿命化、省エネルギー化などによる計画的・効率的な整備を進めます。公共施設の整備、維持管理、運営をより効果的、効率的に行うため、PFI、指定管理者制度、包括的民間委託、民間譲渡などの官民連携の導入を検討します。

4 施設の広域利用

施設の利用状況や行政サービスの必要性等を検討し、施設廃止に伴う町民生活への影響が少ない施設は、近隣市町に設置されている類似施設の広域利用を進めます。

▶ 土木系公共施設

土木系公共施設については、整備計画や長寿命化計画に基づき、計画的な改修・更新を進めます。その際費用対効果を検討し、全体的、長期的な視点により優先順位を定め、投資額を決定します。

道路については高齢者の増加等の社会的変化に配慮し、新たな要請に対する重要性、緊急性を考慮し、安全性、経済性と財源のバランスを図ります。また、長寿命化を図り、効率的な改修によりライフサイクルコストを縮減します。

奈井江町公共施設等総合管理計画 概要版 平成 29 年 3 月
 発行：奈井江町
 住所：〒079-0392 北海道空知郡奈井江町字奈井江 11 番地
 TEL：0125-65-2111（代表）／FAX：0125-65-2809

